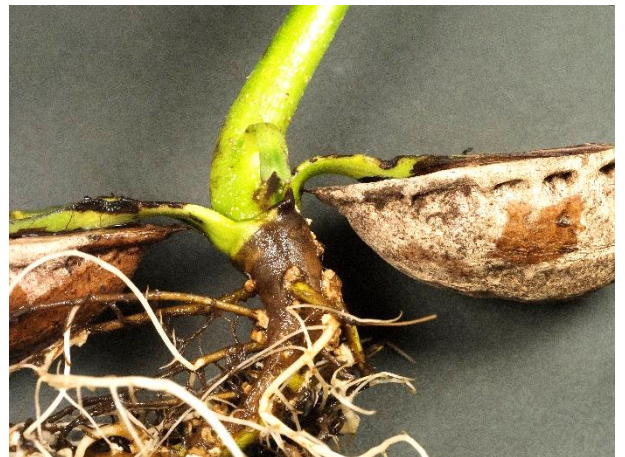


植物多様性センターの「オニグルミ」

例年になく早く明けた梅雨、既に小暑も過ぎ立秋(今年は8月7日)までは「暑中」と最も暑さが厳しい時期です。真夏の太陽を受け、植物たちは元気な生長をしています。作業中にふと見つけた実生、オニグルミでした。掘り上げるとあの硬い殻(堅果)が二つに割れて発芽していました。よく見ると、薄黄色いはずの実が緑色に変色しその真中から立派な茎が伸びています。オニグルミは川沿いなどの湿った場所で生息し、果実が水に流れて分布を広げます。リスなどが土中に埋めて忘れ去られると、それが発芽して実生となります。



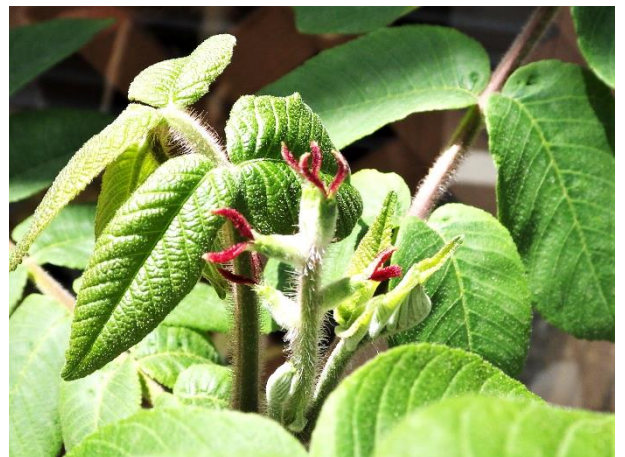
太陽光により緑変した子葉
殻がついたままの状態



堅果が縫合線に沿って割れる
先の尖った方から根が出る



堅果から取り出した種子
発芽して子葉は四葉になる



オニグルミの雌花序(5月)
赤い柱頭が目印